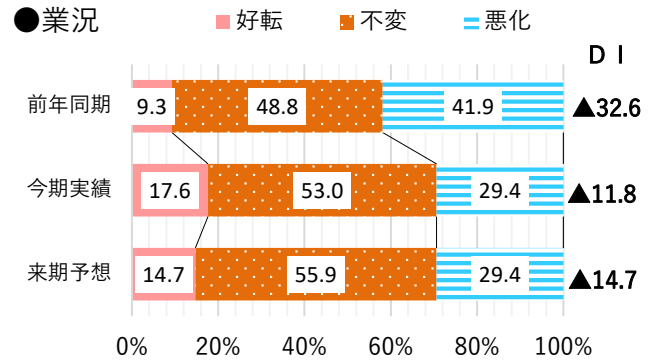


製造業

業況、売上、採算

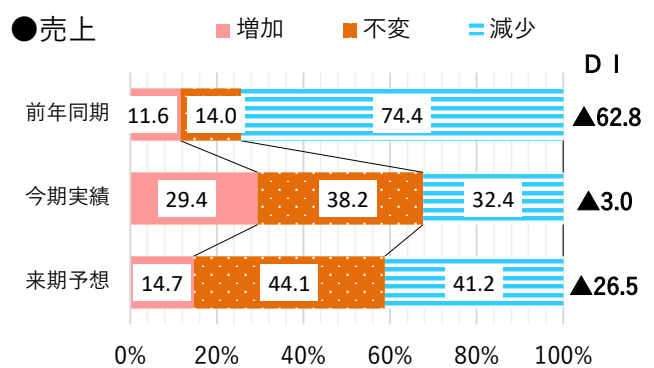
今期(2021.10~12)の業況判断DIは▲11.8で、前年同期(2020.10~12)と比べ20.8ポイント上昇しました。

来期(2022.1~3)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



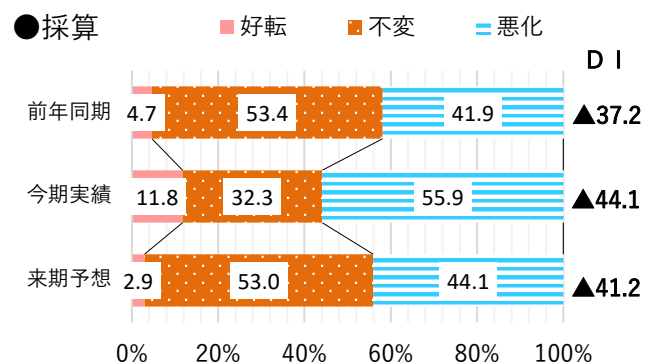
今期の売上DIは▲3.0で、前年同期と比べ59.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。

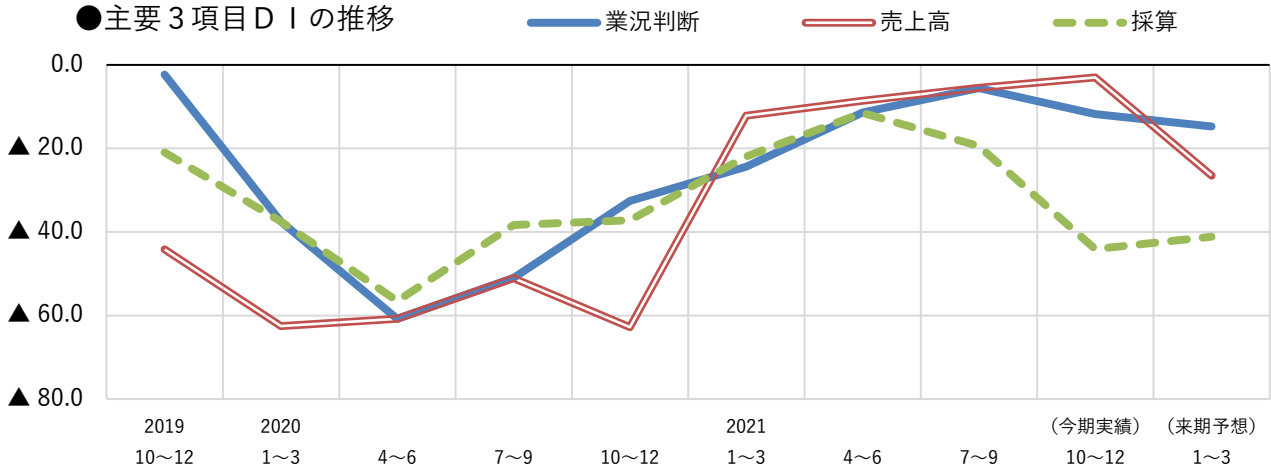


今期の採算DIは▲44.1で、前年同期と比べ6.9ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



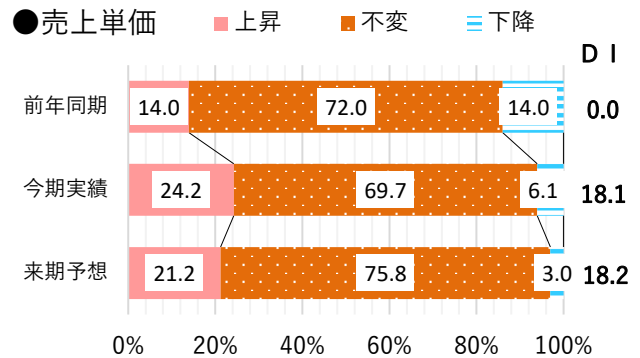
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

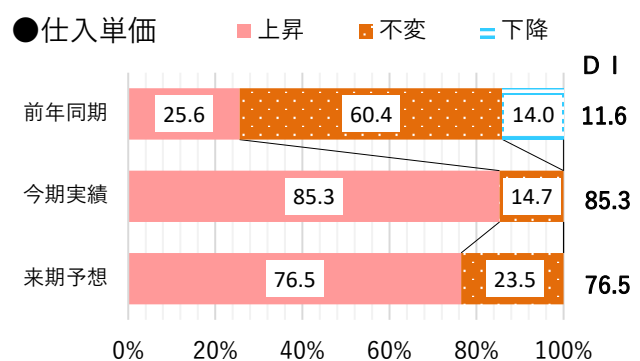
今期の売上単価DIは18.1で、前年同期と比べ18.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価のほぼ横ばいを予想しています。



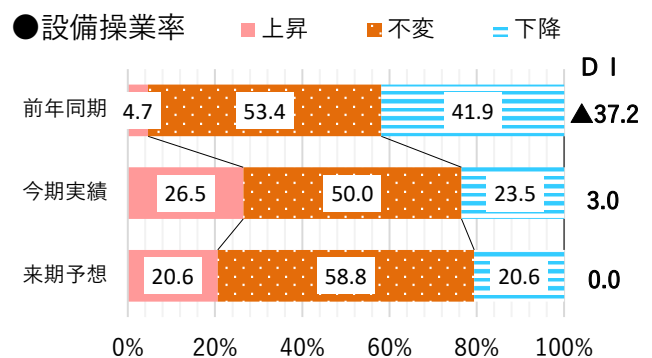
今期の仕入単価DIは85.3で、前年同期と比べ73.7ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは3.0で、前年同期と比べ40.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

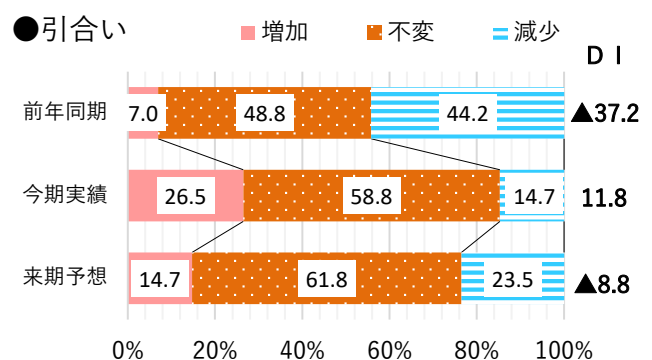
来期は、設備操業率の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは11.8で、前年同期と比べ49.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

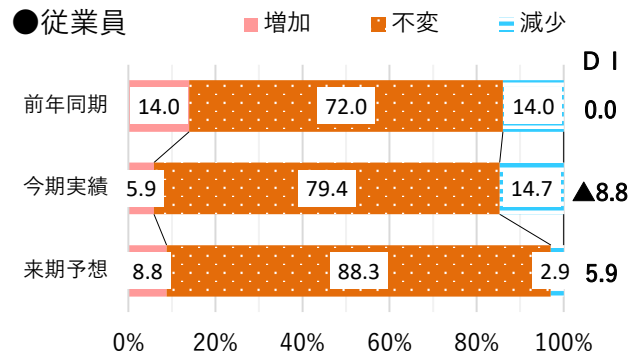
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



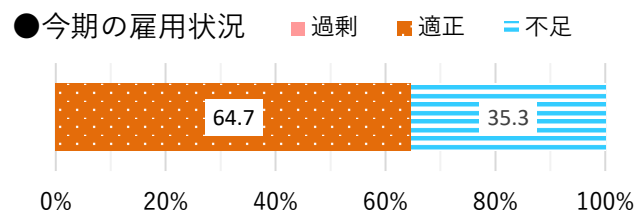
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.8で、前年同期と比べ8.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は35.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の58.8%を占めています。

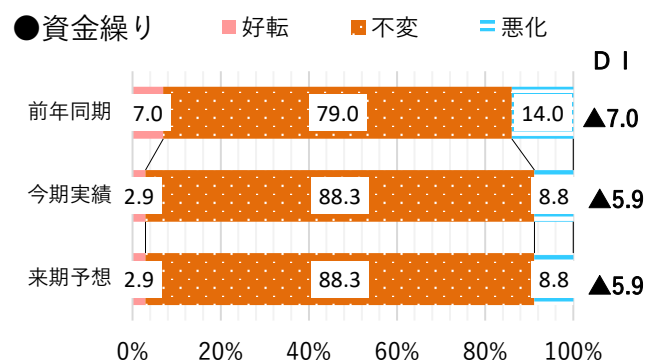
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	20
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	3

資金繰り、設備投資

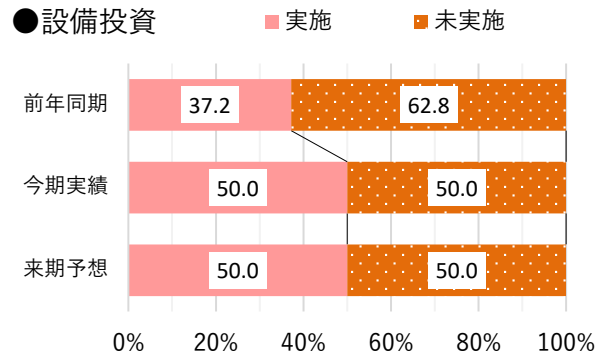
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



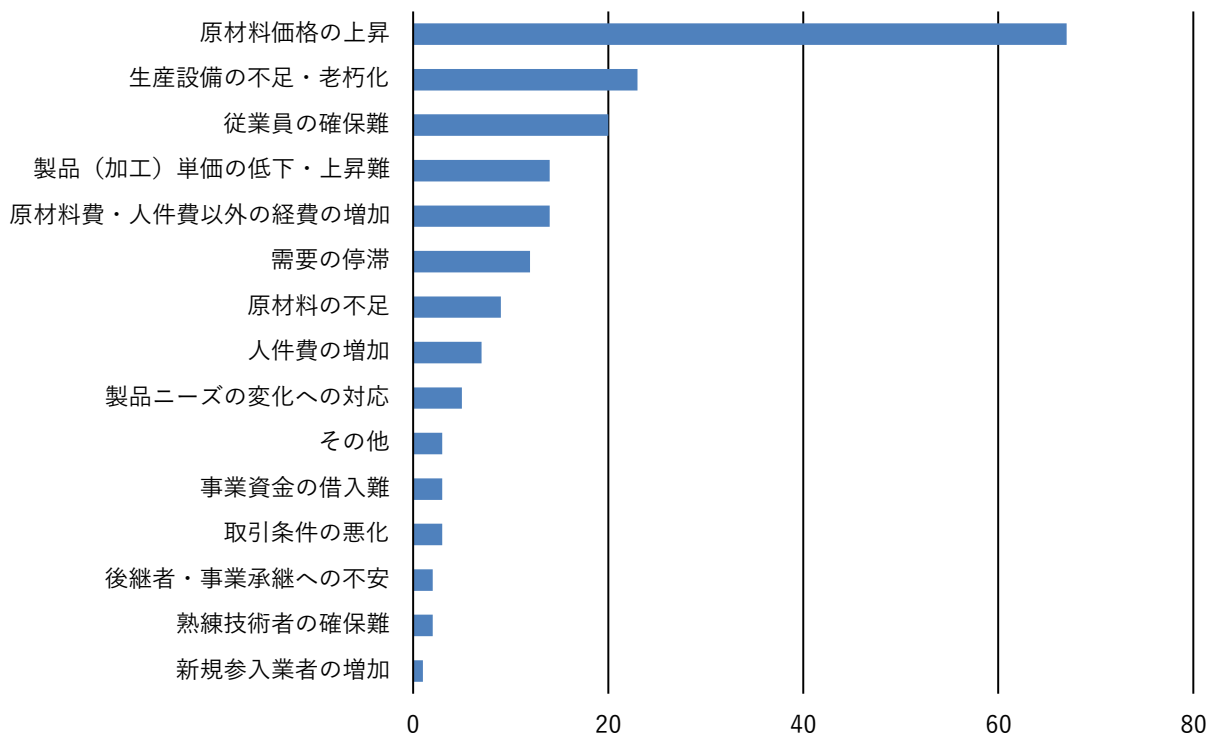
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ12.8%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は増加したが、従来通りの利益の確保が難しい。契約単価が大幅に下降している訳ではないが、材料価格を販売価格に転嫁しきれていない。（金属製品）
- 金属材料の高騰が続いた。（金属製品）
- 設備更新の時期が迫っている。売上は伸び悩んだ。（ゴム製品）
- コロナ禍の影響は徐々に弱まっているが、今年度中は売上の減少が続くと思われる。主原料価格が高騰しているが、価格転嫁が不十分で、採算が悪化した。退職者分の人材は確保できたが、まだ不足している。賃金の見直しは終えた。（プラスチック）

- 政府から石油備蓄の放出があったが、原材料価格と電力料金は下降する見込みがないため、採算の好転は期待できない。製品価格への転嫁も難しい。(プラスチック)
- 原料価格が上昇しているが、売価改定が難しく、転嫁できていない。(プラスチック)
- 利益率が低下した。(機械器具)
- コロナ禍による不況から回復しつつある。(紙製品)
- 原材料、包装資材、燃料費の価格上昇により、採算が悪化した。数年に渡る最低賃金の上昇が徐々に経営を圧迫している。原価の上昇分をどれだけ販売価格に転嫁できるか、同業他社の動向を注視しながら模索している。(食料品)
- 売上は前年同期比117%と増加したが、仕入単価も上昇した。賃金は変わっていない。燃料費の高騰によって、運賃が上昇した。(食料品)
- 製造量は増加した。原材料価格の上昇や時給引き上げにより、経費が増加した。(食料品)
- 売上は微減、仕入価格は微増だった。従業員数は変わらない。賃金を引き上げた。(食料品)
- 新型コロナウイルスの影響はほとんどなかったが、工場人員の確保が難しい。(食料品)
- 土産品需要が戻り始めたが、単価が安く、忙しい割には売上につながらない。(食料品)
- 仕入価格が上昇したが、巣ごもり需要によって売上の減少は抑えられた。(食料品)
- 新酒の発売による売上の回復に取り組んだ。(飲料)
- 新型コロナウイルスの影響が続き、昨年の状況と大きな変化はなかった。(医薬品)

[来期の業況について]

- 今期同様、引合いが増加すると思われるが、原材料の確保が課題だ。(金属製品)
- 先行きは不透明ながら、業況の好転を見込む。(ゴム製品)
- 受注の増加傾向と販売価格の上昇傾向を見る限り、売上の増加と採算の好転が見込まれるが、主原料の確保難と価格上昇が懸念される。(プラスチック)
- 製品価格の引き上げを受け入れない取引先との商売は無理に続けず、新規商材の販売増加に取り組む。(プラスチック)
- 原材料価格が再度上昇し、価格転嫁には年度一杯かかると思われる。(プラスチック)
- 平年並みに推移すると思われる。(機械器具)
- 加工食品関連企業への売上を中心に、回復傾向が続く。(紙製品)
- 年明けから原材料価格の大幅な値上げが控えており、販売価格へ転嫁できるかが勝負だ。4月から新卒社員が各部署に配属されるので、人員不足は緩和されると思う。(食料品)
- 仕入額や経費全般の上昇に対応するため、製品価格の改定を考えているが、売上の減少は避けられず、業況は悪化すると思われる。(食料品)
- 前年並みの売上を予想する。仕入価格は今期よりも上昇すると思われる。賃金は微増だった。(食料品)
- 中国向けの売上増加に伴い、業況は好転すると思われる。(食料品)
- 節分、ひな祭り等に合わせた販売促進策により売上の増加を図る。(飲料)
- 健康診断受診率の増加が見込めないため、大きな好転は期待できない。(医薬品)